

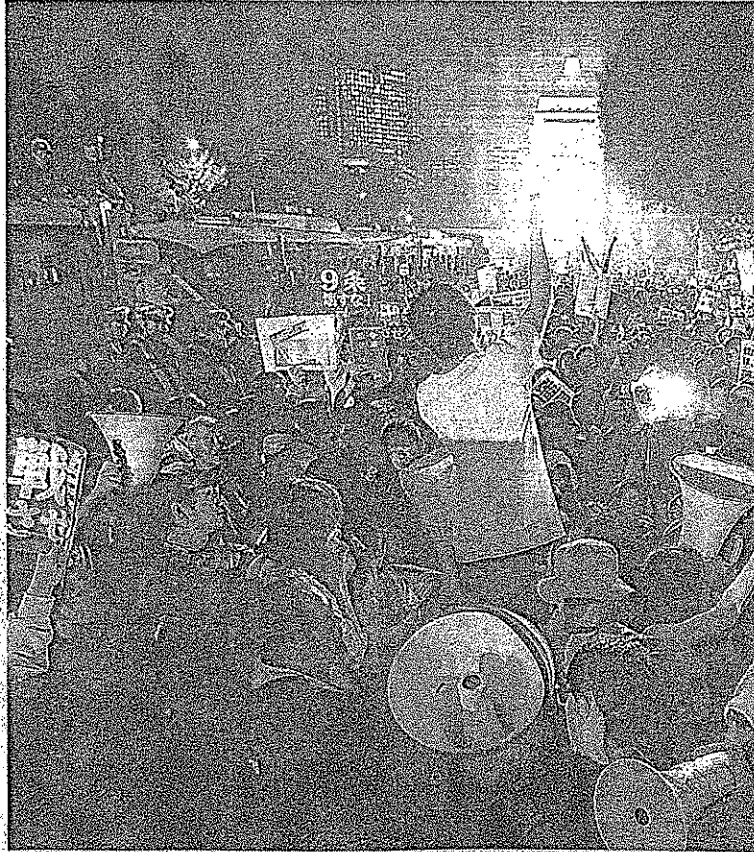
安保法案 採決へ

与党、違憲批判押し切る

内閣不信任案は否決

安全保障関連法案は18日、参院本会議での採決に向けて与野党が最後の攻防を繰り広げた。法案の内容が憲法違反と指摘される中、民主党など野党も党は衆院に安倍内閣不信任決議案を提出。採決に抵抗したが、自民、公明両党は18日の参院本会議で法案を採決し、19日未明にも成立させる構えだ。一方、この日も全国各地で市民による法案反対のデモが行われた。

参院議院運営委員会の理事会は18日夜、安保関連法案を同日の本会議で採決することを決めた。民主党、維新の党、共産党、社民党、生活の党と山



国会前での安保関連法案への抗議行動で、採決の進行に反対の声を上げる人たち＝18日午後6時49分、東京・永田町、関田航撮影

本太郎とほかまたの野党5党は18日、「安倍政権は、安保法案を救済に頼んで脚引に押し通そうとしている」として、衆院に安倍内閣不信任決議案を共同提出した。

民主の岡田克也代表は衆院本会議での討論で「この法案が憲法違反であることが明確になった。憲法9条の解釈を根本的に変え、海外での武力行使を可能にすることに圧倒的多数の国民が反対している」と断言した。自民の棚橋泰文幹事長代理は「憲法に合致していることは審議の中で明らかだ。一日も早い成立が重要だ」と反論した。内閣不信任決議案は自民、公明両党などの反対多数で否決された。

一方、安保関連法案の採

決が17日の参院特別委員会で行われたのを受け、民進は17日夜から18日午後にかけて、参院に中川雅治参院議長に中川雅治参院議長に谷元、防衛相の岡田、山崎正昭参院議長の議長不信任、安倍首相の問責の各決議案を相次いで提出。安保関連法案を参院本会議で採決させないよう抵抗も続けた。決議案はいずれも与野党などの反対多数で否決された。その後、棚橋幹事長特別委員長の問責決議案も提出された。

安保関連法案は、武力攻撃事態法改正案、周辺事態法改正案（重要影響事態法案）を名称変更）などの改正案10本を一括した「平和安全法制整備法案」と、自衛隊をいつでも海外に派遣できる恒久法「国際平和支援法案」の2本立て。

「日本の平和と安全」にについては、武力攻撃事態法改正案に基团的自衛隊の行使要件として「存立危機事態」を新設した。「世界の平和と安全」では、恒久法の国際平和支援法案で、国際社会の平和と安全などの目的を掲げて戦争している他国軍を、いつでも自衛隊が後方支援できるようにする。

安保関連法案は、安倍内閣が5月15日に国会に提出。衆院特別委で約1.6時間の審議を経て、7月16日に衆院を通過。参院では約1.0時間審議された。

10万人になれば、50万人が100万人にもなる」と語った。

入波は各地で広がった。大阪・キタではSEALEDと連携する「SEALED」・KANSAIの街頭活動があり、約6千人（主催者発表）が参加。名古屋市の繁華街・榮には約2,500人（同）、那覇市には約1,500人（同）が集まった。

国会前 やまない「反対」

安全保障関連法案に反対する人たちは18日も、東京・永田町の国会議事堂やその周辺、各地の抗議行動で声を上げた。国会議事堂前の抗議行動は14日から8日連続で、18日は夕方以降（主催者発表）が集結。ペンライトや発光ステッカーの光が連なる中、民主主義ってなんだ、などと訴えた。

議事堂前の輦馬村の車道に警察車両が限らず並ぶ警戒態勢。参加者は歩道で身動きがでない状態にな

9/19 朝日